

株式会社來間屋生姜糖本舗

■事業

両ひねり包装機導入による生産性向上と
販路拡大のための基盤整備

■対象類型

ものづくり技術

■導入機械装置

簡易包装機(両ひねり仕様)

創業者の試行錯誤
最高品質の生姜糖を提供

【経営理念】

「生姜糖」の専門店として、お客様へ最良な製品をお届けします。
「生姜糖」とおして社会の和を広げることにも最善を尽くします。

江戸時代初めの1715(正徳5年)年、來間屋文左衛門が創業して以来300年以上に渡り、地元の出西生姜を使った一子相伝の素朴な生姜糖を作り続ける。受注の増大に応えるため補助事業を活用して両ひねり包装機を導入し、生産効率の向上を図るとともに、出西生姜の生産拡大も目指している。

店舗のある旧平田市(現出雲市)は、木綿街道と呼ばれるように、木綿の集散地として栄え、生産者、商人ともに、日持ちする生姜糖を土産品として持ち帰った。街道を通る出雲大社の参詣者も、買い求めた。文左衛門は、繊維が少ない上に独特の甘みと芳香を失わない出西生姜に着目、試行錯誤の末に、「古根」と呼ばれる秋採れの生姜が、最高品質に仕上がることにたどりついた。

ニーズに合わせた商品開発
手作業包装を自動化

以来、製法は後継者だけに伝えられた一子相伝。生姜と砂糖の配分、銅製の型に流し込んで煮詰める時間など、微妙な加減で出来栄が大きく異なる。11代目の久社長は、父親が若くして病気を患ったため、30歳のときに、ソフトウェア会社を退職して家業に就いた。あるとき、お茶受けとして提供してほしいという要望に応え、従来の1枚の板状の大きなサイズから、一口サイズにしたものを出したところ好評を得た。

種類も、生姜糖と抹茶糖の2種類に、生姜糖の紅色を加えた3種類と増やし、ギフトセットやバレンタイン用にハート型も考案して、葉袋のようなパッケージに入れた商品も出した。プライダル・企画商品として、生姜と砂糖を煮詰めて固めることから「縁結び」、生姜は一つの種からたくさんの実がつくことから「子宝」用としても発売している。

しかし、需要はあっても、1人の専任担当者と繁忙期に他の従業員が手伝う手作業で一つ一つ包むしかなかった。補助事業で、両ひねりの包装機を導入したところ、3、4倍の効率化につながった。



商品を手にする來間 久 社長


 1 導入した簡易包装機
 2 両ひねり包装機で包まれた一口サイズの生姜糖
 3 恋の甘方楽(ハート型)
安定した原料生産を目指し
新商品開発で市場拡大へ意欲

一方、需要に応えるには、出西生姜の生産量も増加させる必要があり、現在の栽培農家に、新たな來間屋の自家農場として委託生産してもらうことを要望している。品質のいい出西生姜が、安定して仕入れられ、生姜糖の生産量アップにつながる。

また、新商品の開発も手掛け、2019年6月には、雲南市大東町の農家が生産したマコモを使って「まこも生姜糖」を開発した。2、3年後にはさらに新商品が生み出せるよう、研究も進めている。

この10月1日には、個人事業者から、資本金300万円で株式会社化した。材料費、資材費の高騰が続き、10年ぶりに商品の値上げにも踏み切った。年商は現在の6千万円から1億円の目標を掲げるが、無理をせず、作業量と生姜の生産量のバランスを考えながら、地道に伸展させることにしている。

■Company Data

株式会社來間屋生姜糖本舗



來間屋生姜糖本舗

 代表者名：來間 久
 創業年月日：正徳5年(1715年)
 設立年月日：令和元年10月
 資本金：3,000千円
 従業員数：7名
 主たる業種：食料品製造業
 売上：6,900万円
 本社：〒691-0001 島根県出雲市平田町774
 電話：0853-62-2115
 FAX：0853-62-1303
 URL：http://syougatou-honpo.jp/